

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-196175

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)8月30日

G 01 R 31/26

G-7359-2G

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 品種自動切換えオートハンドラ

⑯ 特 願 昭60-36341

⑰ 出 願 昭60(1985)2月27日

⑱ 発 明 者 内 堀 剛 好 秦野市堀山下1番地 株式会社日立製作所神奈川工場内
⑲ 発 明 者 竹 田 勝 彦 秦野市堀山下1番地 株式会社日立製作所神奈川工場内
⑳ 出 願 人 株式会社日立製作所 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
㉑ 代 理 人 弁理士 小川 勝男 外1名

明 細 書

1 発明の名称 品種自動切換えオートハンドラ

2 特許請求の範囲

1 LSIを順次供給するローダ機構と、供給されたLSIを所定の位置まで搬送し位置決めを行う搬送位置決め機構と、LSIを試験すべくテストヘッドへハンドリングするハンドリング機構と、試験終了後のLSIを良品に判別収納するアンローダ機構より成るオートハンドラにおいて、IC/LSIの捺印文字読取り装置とテストアダプタボード自動切換え機構を設けたことを特徴とする品種自動切換えオートハンドラ。

3 発明の詳細な説明

〔発明の利用分野〕

本発明は、LSI検査等のマテハンの自動化に係り、特に検査工数の低減、省力化に有効なオートハンドラに関する。

〔発明の背景〕

従来のオートハンドラについては、タケダ理

研(株)発行のカタログ LSI/VLSI TEST SYSTEMS ADVANTEST(1983年10月) P13~P16に Handler として製品紹介されている。

これらハンドラは、テストヘッドをIC/LSIの品種に応じて人手で交換する必要がありまたIC/LSIの品種に対応する検査データの切換え指令も人手でVDTよりキーインする必要がある。このため、比較的少品種かつ一品種あたりの生産量が多いIC/LSIには有効な自動検査設備であるが、多品種少量生産の場合、品種が変わる毎に人手によるテストヘッドの交換並びにVDTからの人手キーインによる検査データの切換えを繁雑に実施する必要があり、オートハンドラとしての効果が大巾に低下する欠点があった。

〔発明の目的〕

本発明の目的は、試験すべき多品種のIC/LSIに関し、各品種に対応する検査データ及びテストアダプタボードを自動的に切換え試験

し、人手介入を全く必要としないIC/LSI用オートハンドラを提供することにある。

〔発明の概要〕

本発明の特徴は、上記目的を達成するために試験すべきIC/LSIの捺印文字を、例えば画像処理方式による捺印文字読取り装置で読取り、結果をホストCPU及びテストアダプタボード自動切換機構に送り、ホストCPUからは対応する試験データ、試験プログラムが検索されLSIテスタへ返され、対応するテストアダプタボードがセットされるという一連の品種切換動作を自動で行なうものである。

〔発明の実施例〕

以下、本発明の一実施例を添付図面に基づいて説明する。

第1図は、本発明による品種自動切換えオートハンドラと関係機器のブロック図である。1は品種自動切換えオートハンドラ本体、2はIC/LSIを順次供給するローダ機構、3は供給されたIC/LSIをあらかじめ設定した所

ード自動切換え機構7に送る。第2図は、各IC/LSI品名に対応する試験データ名、試験プログラム名及びテストアダプタボードのテーブルを示す。このテーブルは、ホストCPU8の内部記憶装置に記憶されており、ホストCPU8は捺印文字読取り装置6から送られた品名とテーブルの品名を照合比較し、一致した品名に対応する行のデータを、例えば品名a、試験データ名d、試験プログラム名p、テストアダプタボードt、を抜き出してくる。次にホストCPU8は、試験データ名d及び試験プログラム名pで表わされるデータを外部記憶装置10より索引して一致したデータを8の内部記憶装置に格納し、LSIテスタ9が試験実行できるレベルにデータ処理し、LSIテスタ9に処理データを受け渡す。

一方テストアダプタボード自動切換え機構7は、受信した品名データを処理し、該当するテストアダプタボードに自動的に切換える。この間被試験物のIC/LSIは搬送位置決め機構

定の位置まで搬送し位置決めを行なう搬送位置決め機構、4は被試験物となるIC/LSIをテストヘッドへハンドリングするハンドリング機構、5は試験終了したLSIを良否に判別し収納するアンローダ機構、6はIC/LSIの捺印文字読取り装置で実施例では画像処理方式によっている。7はテストボード切換え機構で関係機器として外部補助記憶装置10を持つホストCPU8及びLSIテスタ9がある。

次に品種自動切換えオートハンドラの動作について説明する。ローダ機構2にセット、準備されたIC/LSIは該機構2により順次搬送位置決め機構3に供給されてくる。搬送位置決め機構3は供給されたIC/LSIを所定の位置で止め、位置決めをし、位置決めが完了した時点で、完了信号を捺印文字読取り装置6に送信する。捺印文字読取り装置6はこの完了信号を受信確認後読取りを開始する。該装置6は読取り終了後、読取りデータをIC/LSIの品名として、ホストCPU8とテストアダプタボ

3よりハンドリング機構4によりテストヘッドにセットされ試験準備完了となる。この時、LSIテスタ9に試験開始の起動がかかり、LSIテスタ9はテストヘッドにセットされたIC/LSIに一致した試験条件、試験データで試験される。試験終了後は良否によってアンローダ機構5で判別排出される。

本実施例によれば、多品種のIC/LSIの試験が全自動で実施でき、検査効率向上の効果がある。

〔発明の効果〕

本発明によれば、多品種少量生産のIC/LSIの試験が効率良く実施でき、検査作業の自動化、省力化に大きな効果がある。

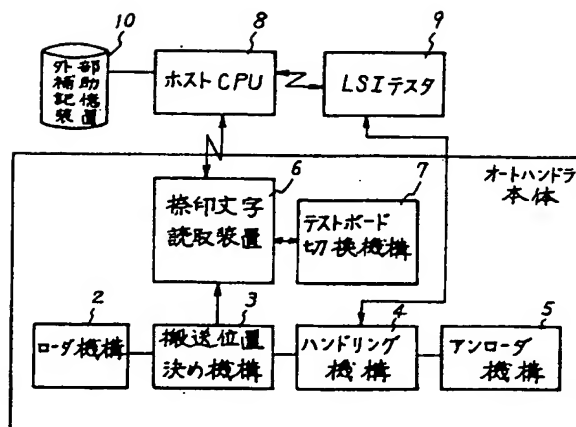
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の品種自動切換えオートハンドラのブロック図、第2図はLSI品名に対応する各パラメータをテーブル形式で示す表示図である。

2…ローダ機構

- 3 …搬送位置決め機構
- 4 …ハンドリング機構
- 5 …アンローダ機構
- 6 …捺印文字読取り装置
- 8 …ホストCPU
- 9 …LSIテスタ
- 10 …外部補助記憶装置

第 1 図



第 2 図

LSI品名	試験データ	試験プログラム	テストアダプタボード
π_1	d_1	P_1	ϵ_1
π_2	d_2	P_2	ϵ_2
π_3	d_3	P_3	ϵ_3
\vdots	\vdots	\vdots	\vdots
π_n	d_n	P_n	ϵ_n

代理人弁理士 小 川 勝 男

